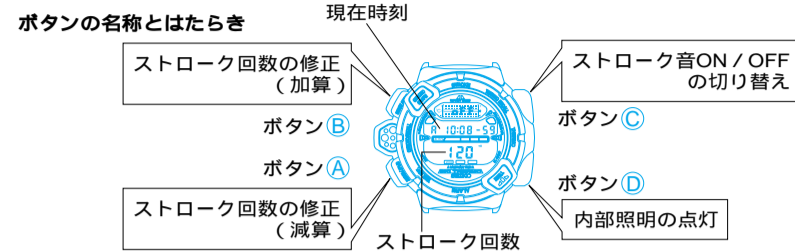


■ ストローク放音の使いかた

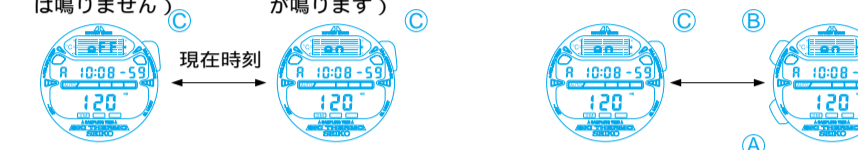
- ・ストローク音回数の入力範囲20～240回 / 1分間
- ・ストローク音の最大放音時間約16時間（途中、操作をしない状態） 報音停止（OFF）
- ・ストローク音はON（セット） / OFF（解除）の切り替えができます。
- ・ストローク音（ON状態）はモードを切り換えても放音します。



回転ベゼルを回し、「ストローク表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせてください。

- ① ボタン **C** を押す毎にOFFとONが交互に表示されます。どちらかを選択します。
- ② ボタン **C** を押して、ON（セット）を選択します。ストローク音がセット回数に合ったスピードで放音します。この状態でボタン **A** or **B** を押すとスピードの調整ができます。（OFF状態でもできます。）

例）ストローク回数 120回 / 1分間（ストローク音は鳴りません）



③ 使い終わったら、ボタン **C** を押してストローク音を止めます。

ON / OFFに切り替わります。



ストローク音はモードを切り替えても放音しますが、下記の場合、その間はOFF（解除）状態になります。

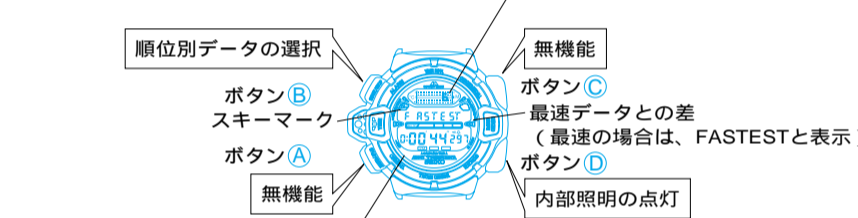
- 1) 修正状態（各モード）
- 2) アラームの報音状態
- 3) 内部照明の点灯状態
- 4) ストックウォッチの「オートスタート・カウントダウン」状態

ストローク音を使用しない場合は、電池寿命に影響しますので放音を停止させてください。

■ タイムディファレンスの使いかた

- ・最速計測データから速い順に表示します。
- ・計測途中、ストップ（リセット）状態でも、メモリーの呼び出しはできます。
- ・最大10個のデータ（スプリットタイム）をメモリー（記憶）しています。

ボタンの名称とはたらき スプリット回数（データメモリーNO）



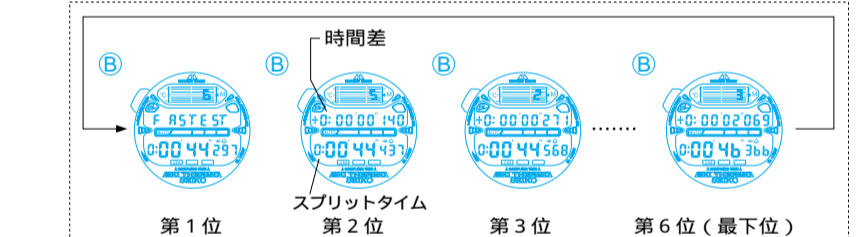
計測途中、終了（ストップ・ストップ リセット）後の、どちらでも呼び出せます。

- ① 回転ベゼルを回し、「タイムディファレンス表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせてください。

計測途中で呼び出す場合は、「スキーマーク」が点滅します。

- ② ボタン **B** を押す毎に記憶されたデータが次の順序で表示されます。スプリット回数は「最速データから速い順」に表示します。2位以降は「スプリットタイム」の他に、「最速データとの時間差」も表示します。

例）スプリットタイム回数を6回取った場合



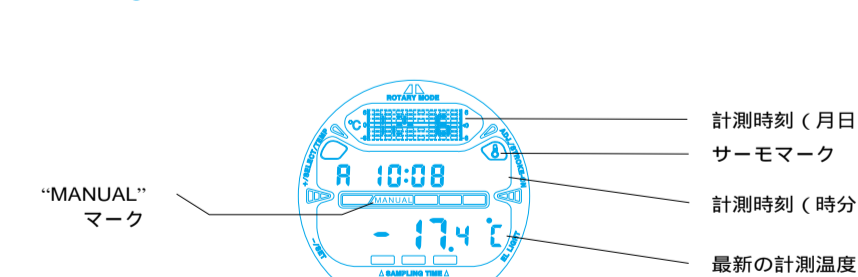
③ データのメモリーが「1個」及び「ない」場合の表示



ボタン **B** を押しても表示は変わりません。

■ 手動計測の使いかた

- ① 自動計測状態でボタン **B** を押すと、手動計測状態になり、手動で温度を計測し、計測時刻（月日時分）とその温度をメモリーします。表示には、「MANUAL」マーク、最新の計測温度とその計測時刻（月日時分）を表示します。再びボタン **B** を押すと、手動で新たに温度を計測し、計測時刻とその温度をメモリーします。



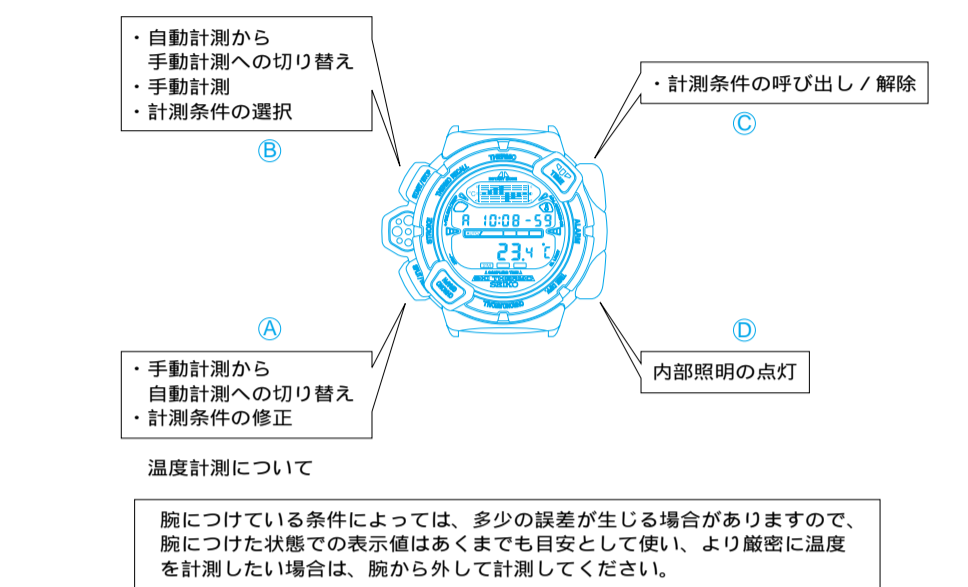
- ② 手動計測では、温度を最大10個まで手動計測データとしてメモリーすることができます。メモリー数が10個を超えると、一番古いデータから順にデータが1つずつ消去されます。1分以内に2回以上手動計測（温度が同じ）を行った場合、計測時刻表示が「分」表示までの為、全く同じデータがメモリーされる場合があります。
- ③ 手動計測状態で、ボタン **A** を押したとき、自動計測状態に替わります。
- ④ 手動計測状態においても自動計測は続けられます。

■ サーモの使いかた

回転ベゼルをまわし、「サーモ表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせて、温度センサーにより、一定時間間隔で自動的に計測した温度を表示させたり（自動計測）、手動による計測・表示をさせること（手動計測）ができます。また計測時間間隔・温度補正值の変更（計測条件修正）ができます。

- ・サーモでの機能は以下のようになります。
- ・計測温度範囲：-20～50°C（-20°C未満は「-20.L°C」、50°C超過は「50.H°C」と表示）
- ・メモリー：自動計測データ30個まで可能です。（計測時間間隔は、2分、12分、1時間のいずれかに設定可能です。）手動計測データ10個まで可能です。

ボタンの名称とはたらき

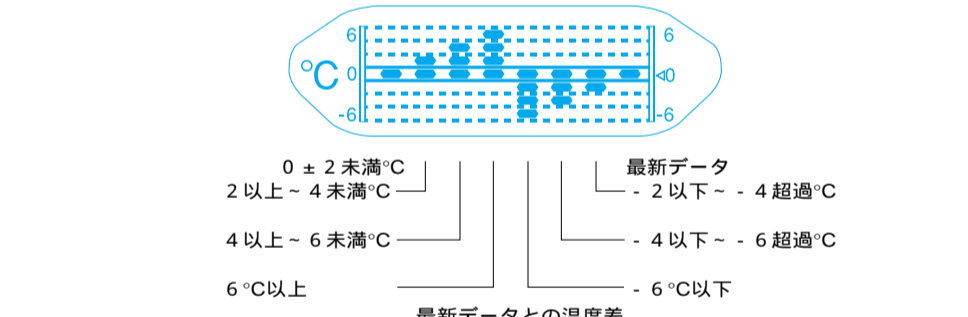


自動計測の使いかた

- ① 本機はすべてのモードで、一定時間間隔で自動的に計測を行っています。回転ベゼルをまわし「サーモ表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせると、自動計測状態になります。又手動計測状態でボタン **A** を押した時も自動計測状態になります。自動計測状態では、「AUTO」マーク、最新の温度計測データ、温度傾向グラフ（最新温度計測データに対する差）が表示されます。計測時間間隔は、工場出荷状態で2分となっています。（「計測条件修正」で2分、12分、1時間のいずれかに設定できます。）
- ② 温度表示の見方



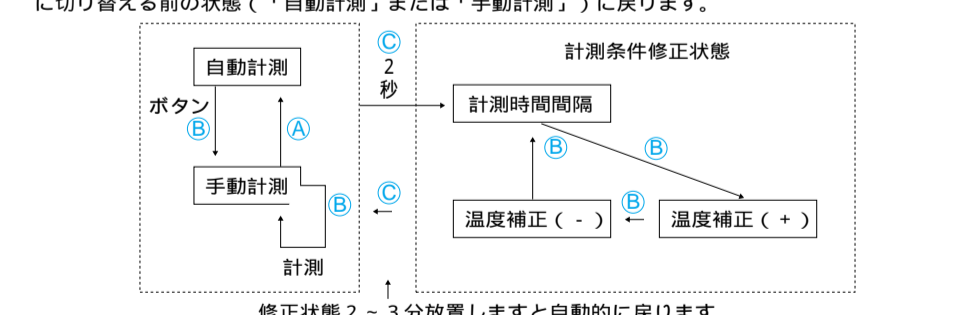
- ・グラフィックには最新データに対する温度差を棒グラフで表示します。（温度傾向グラフ）
- ・グラフィック表示の意味は以下の図のようになります。（「時計・カレンダー」モードでのグラフはここを参照）



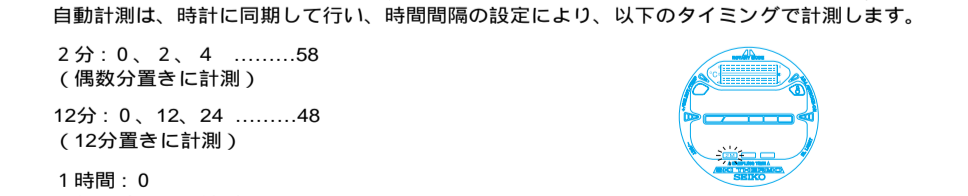
- ③ 自動計測では、温度を最大30個まで自動計測データとしてメモリーすることができます。メモリー数が30個を超えると、一番古いデータから順にデータが1つずつ消去されます。

計測条件修正の使いかた

- ① 「自動計測」、「手動計測」状態でボタン **C** を2秒以上押し続けると、「計測条件修正」状態に切り替わります。「計測条件修正」では、「自動計測」における計測時間間隔の切り替え（2分 / 12分 / 1時間）・計測温度の補正を行うことができます。「計測条件修正」状態でボタン **C** を押すか、または2～3分放置すると、自動的に「計測条件修正」に切り替える前の状態（「自動計測」または「手動計測」）に戻ります。



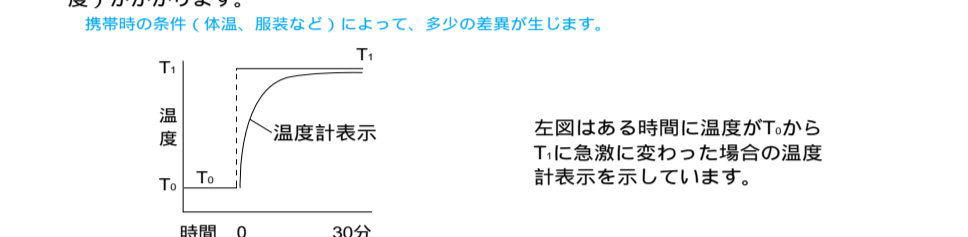
- ① 計測時間間隔の切り替え（「自動計測」における）「自動計測」、「手動計測」状態でボタン **C** を2秒以上押し続けたとき、または、「温度補正（-）」状態でボタン **B** を押したとき、計測時間間隔の切り替え状態になります。ボタン **A** を押す毎に2分、12分、1時間と切り替えることができます。計測する時間間隔を変更した場合は、それまでの自動計測データはすべて消去されます。自動計測は、時計に同期して行い、時間間隔の設定により、以下のタイミングで計測します。



- ② 温度補正（携帯状態で標準温度に対しての補正）計測時間間隔の切り替えで、ボタン **B** を押しすると温度補正（+）更にボタン **B** を押しすると温度補正（-）に切り替わります。この状態では、センサーのばらつき・時計携帯による温度の誤差を修正することができます。温度補正（+）では、「+ADJUST」と表示し、ボタン **A** を押しすることにより、温度に補正値を加算していきま（ボタン **A** を押し続けて連続加算します）。温度補正（-）では、「-ADJUST」と表示し、ボタン **A** を押しすることにより、温度から補正値を減算していきま（ボタン **A** を押し続けて連続減算します）。温度補正範囲は、-20.0～50.0°Cで、+/-の補正が0.1 刻みでできます。温度補正をリセットする（工場出荷時の値に戻す）場合は、温度補正（+/-）修正状態でボタン **A** と **B** を同時押しします。工場出荷時：時計を「放置状態」で±2°Cに入るように調整されています。温度補正時に-20°C未満または50°Cを超える場合は、補正値が変化せず、補正値リセットのみ有効（ボタン **A** と **B** を同時押し）となります。



急激な温度変化があったとき 温度センサーは時計に内蔵されていますので、計測値は時計自体の温度を表示しています。急激な温度変化があったとき、時計自体がその温度と同じになるにはある程度の時間（約30分程度）がかかります。



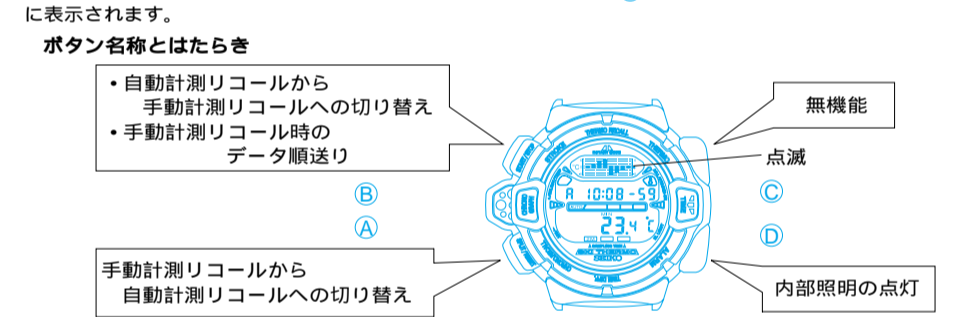
計測範囲を越えたとき 本機の計測範囲（-20°C～50°C）を越えた場合は下記のように表示されます。

計測結果	温度表示
アンダーフロー -20°C未満	-20.L°C
オーバーフロー 50°C超過	50.H°C

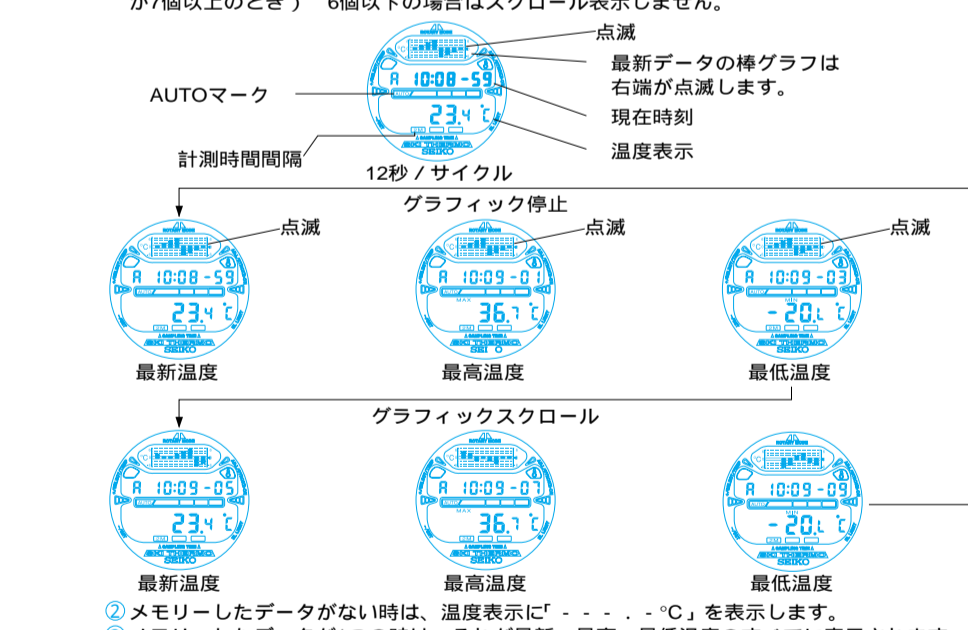
測定温度精度について 時計を腕にせず放置した場合（初期状態：温度補正なし）の精度は、-20～50°Cで±2°C以内となります。

■ サーモリコールの使いかた

- ① 回転ベゼルをまわし、「サーモリコール表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせると、サーモモードで計測・メモリーした温度を表示します。メモリーした温度データは、サーモモードの自動計測、手動計測に対応して呼び出され表示されます。自動計測データは「自動計測リコール」で呼び出され、最新データ / 最大データ / 最小データの順序で表示され、グラフィックには最新データに対する温度差を棒グラフでスクロール表示（流れ表示）されます。手動計測データは「手動計測リコール」で呼び出され、ボタン **B** を押す毎に最新データから新しい順に表示されます。



- ① 回転ベゼルをまわし「サーモリコール表示」をモード指示マーク（ Δ ）にあわせると、自動計測リコール状態になります。又手動計測リコール状態でボタン **A** を押したときも自動計測リコール状態になります。自動計測リコール状態では、「AUTO」マークが点灯し、温度表示には、計測・メモリーしたデータ最新 / 最高（MAX） / 最低（MIN）温度を順に繰り返して表示します。グラフィックには最新データに対する温度差を棒グラフでスクロール表示します（データが7個以上のとき） 6個以下の場合にはスクロール表示しません。

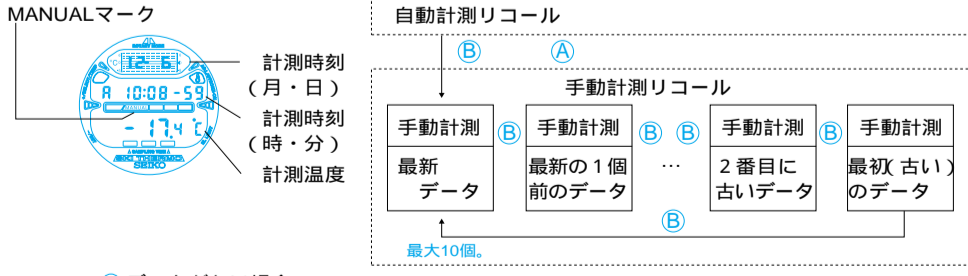


- ② メモリーしたデータがない時は、温度表示に「- - - - °C」を表示します。
- ③ メモリーしたデータが1つの時は、それが最新・最高・最低温度のすべてに表示されます。

自動計測リコール状態は、必要がない場合は電池寿命に影響しますので他のモードへ切り替えてください。（例：時・刻・カレンダーモード）

手動計測リコールの使いかた

- ① 自動計測リコール状態でボタン **B** を押すと、手動計測リコール状態に切り替わります。手動計測したデータは、ボタン **B** を押す毎に、最新のデータから順に表示します。



- ② データがない場合、計測時刻表示に「- - - -」、温度表示に「- - - - °C」を表示します。